

令和5年度 第3回 環境審議会 議事録

- 1 日時 令和6年2月19日（月）午前10時～午前11時30分
- 2 会場 豊明市役所 新館1階 会議室4,5
- 3 出席者 委員 18名出席 1名欠席
事務局 市長、経済建設部長、環境課長、環境課長補佐兼環境保全担当係長、ごみ減量推進担当係長、環境課係員
傍聴者 なし
- 4 議事 (1) 豊明市一般廃棄物処理基本計画の答申について
- 5 議事内容

■部長 あいさつ

日ごろより環境行政にお力添えいただきましてお礼を申し上げます。本日は豊明市一般廃棄物処理基本計画の改定のための答申を承る機会となっております。廃棄物行政は、市民の皆さんの高い意識と行動により、分別の徹底、排出の抑制がなされてきました。今後も維持しながら、外れることなく、最適な廃棄物対策を進めていかなければならないと考えています。ごみにしない、資源を活用することに重点を置いた計画となっているのが、今回の計画の改定かと認識しています。本日はよろしくお願いたします。

■会議成立

議長 18名の委員出席で成立要件を満たしているため、審議会を開会する。

■議事(1) 豊明市一般廃棄物処理基本計画の答申について

事務局 「豊明市一般廃棄物処理基本計画修正部分抜粋」「豊明市一般廃棄物処理基本計画について（答申）（案）」に基づき説明。

議長 委員の意見を求める。

議長 こども家庭庁が令和5年度より発足した。こどもを中心とした街づくりを考えている。今回の計画の「3環境学習の推進」のところで「小学校を中心とした」とあるが、小学校に入る前から親しんでおくという考えもあるかと思うがどうか。

事務局 小学校前の子どもを含むように、「小学校」という言葉を入れずに「子ども」とするということのもひとつである。

委員 先日、組成調査に参加した。その際に使い捨ての紙おむつがたくさん捨てられているのを見たが、おむつは資源として活用できないか。高齢者福祉施設ではたくさん排出されると思う。

事務局 現状、おむつは燃えるごみで処分している。しかし、鹿児島県大崎町などのように資源化している自治体もある。そのことを念頭に置き、今後も情報収集とともに研究を重ねていきたい。

事務局 先ほどの、会長のご意見の「小学校を中心とした」という記述について、小学校を中心とした方が、アプローチとして効果的だという認識のため意識的にこのような表現を使っている。

また、それとは別に、「とよあけ こどもまんなか まちづくり」というのを豊明市でも掲げている。その2点を踏まえ、「3環境学習の推進」の2行目に「また、こどもまんなかまちづくりを推進する中で、家庭で育まれる環境学習を推進していくこと」という一文を加えるということもできる。

副会長 教育委員会では「環境教育をする」ということが可能ということではよいか。

事務局 実際に小学校4年生の総合の時間に出前授業の申込をもらっている。授業のカリキュラムに組み込まれているようだ。

副会長 すでにカリキュラムとして入っているのであれば、「小学校を中心に」というのを売りにしてもいいのではないか。

委員 別件で、「2生ごみ減量化の推進、及び食品ロスの削減」のところで「食品ロスにもつなげる…」という箇所があるが、「食品ロスの削減にもつなげる…」ではないか。

事務局 修正する。

事務局 先ほどの「3環境学習の推進」について、成長していくすべての子どもを対象としており、その中で特に小学校に対する効果があるという意見が、以前の審議会で出た。

実際は、小学生だけでなく、桜花学園附属幼稚園や市内の公立保育園でも段ボールコンポストの講座を行っている。給食の残渣などを入れ込む体験をしてもらっている。

また、親子コンポスト講座も行っており、全ての子どもを対象に環境学習を行っているし、今後も行っていく。

委員 文化会館の周辺の草を以前は人の手で取っていたようだが、最近は見かけないので、薬剤で除草しているのだろうか。

議長 草花は本来生えていてもいいものである。人の手で草刈りをして、きれいにするのが一番良いと思う。

- 事務局副会長 審議会で出た意見として、施設管理者に伝える。
先ほどの「3環境学習の推進」について、全ての子どもたちに環境学習を実施することができればよいと思う。
表現であるが、「小学生を中心とした、すべての子ども…」という表現にしてはどうか。
オーストリアでは保育園から高校まで環境教育のメニューがあるが、まだそこまでには到達できていないのが現状。将来的にはすべての子どもに広げていけたらよいが、今回の計画では、小学校のカリキュラムに入っているのであるなら、まず小学校をスタートとしたらいいと思う。
- 委員 賛成。「すべて」を入れるだけで表現としては十分だと思う。
委員 「2生ごみ・・・」というところに、使える分だけのものを買う、必要な分だけ購入するという内容の食品ロスについての具体的な表現を入れたらどうか。
- 事務局 それでは、「野菜などの葉や皮を有効活用する、使い切る分だけ買う、余分な食材は購入しないといった、食品ロスの削減にもつながる」という表現でどうか。
- 委員 よいと思う。
その他委員 賛成。
事務局 それでは、最終確認をする。3点の修正をする。
- ・「2生ごみ減量化の推進、及び食品ロスの削減」
食品ロスにもつなげる…→食品ロスの削減につながる…
 - ・「2生ごみ減量化の推進、及び食品ロスの削減」
有効活用するなど…→有効活用する、余分な食材を購入しないといった…
 - ・「3環境学習の推進」
小学生を中心とした、子どもへ…→小学生を中心とした、すべての子どもへ
- 議長 3点の修正をし、答申とする。

■答申書の提出

豊明市一般廃棄物処理基本計画について（答申）

島田会長より市長へ答申書の提出。

- 市長 現在、極力ごみではなく資源として循環できるような社会を作

って参りたいと思いますので、今後ともご審議いただきますようお願い申し上げます。

■その他

議 長
事務局

「その他」について事務局より願います。

指定ごみ袋の内、可燃ごみ袋の仕様の変更を検討している。現在は取っ手の付いていない30リットル、45リットルの袋のみとなっている。もっと少容量の袋が欲しいとの声をいただき、30リットルの袋を廃止し、取っ手付きの20リットルの袋を導入したいと考えている。さらに、45リットルの袋は厚さが0.03ミリ、0.04ミリの2種類あるが、0.03ミリの方のみ取っ手付とし、少し薄くした0.025ミリの厚さのものに変更したいと考えている。また厚口の0.04の方は現行のまま残す予定である。

耐久性と容量について、組成調査で詰め替えなどの実験を行った。他の市町で使われている高密度ポリエチレン素材は伸びないので0.025ミリにしても破れず、容量も問題なかった。今回、豊明市では文字入れはせず、色も現行のまま、値段も同等で作成したいと考えている。

委 員

45リットルの0.03ミリは、容量は変わらず、取っ手が付くということか。

委 員

中西ではプラスチックを回収しているが、軽いので変わったとしても問題ない。影響が出るのは、やはり可燃ごみの袋だと思う。

事務局

プラスチックや不燃ごみの袋についても、今後ご意見を伺いながら、また実験も行いながら、検討していきたい。まずは、第一弾として持ち運びが大変な可燃ごみから検討に入った。

議 長

以上で議事を終了する。

議 長
事務局

それでは、事務局より連絡事項を願います。

今回審議いただいた「豊明市一般廃棄物処理基本計画」は3月末の完成の予定である。

議 長

それでは、本日の内容を全て終了し、令和5年度第3回豊明市環境審議会を閉会する。進行を事務局へお返す。

事務局

本日はお忙しいところ大変ありがとうございました。

また、本日の議事録につきましては委員名を伏せて作成、公開する。

< 資 料 >

- ・ 次第
- ・ 豊明市一般廃棄物処理基本計画修正部分抜粋
- ・ 豊明市一般廃棄物処理基本計画について（答申）（案）